

ニケア信条講話（4）

『天と地、見えると見えざる万物の造り主』

A. 【悪魔について】

I. 悪霊の名称及びその存在について

- ・「汚れた霊」（マタイ 10:1）・「暗闇の世界の支配者」（エフェソ 6:12）
- ・「悪魔」（エフェソ 6:11）・「天にいる悪の諸霊」（エフェソ 6:12）
- ・「悪霊」（ルカ 8:31）

更に聖書は、彼らの間に一つの頭なるものを区別して、これを通常、

- ・「誘惑する者」（マタイ 4:3）
- ・「悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜」（黙示 19:2）
- ・「悪霊の頭ベルゼブル」（肋 11:15）
- ・「ベリアル」（2 コリント 6:15）
- ・「この世の支配者」（ヨハネ 12:31）
- ・「この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者」（エフェソ 2:2）
- ・「悪霊の頭」（マタイ 9:34）

などと、呼んでいます。更に、他の悪霊はこれに対して、

- ・「悪魔とその手下」（マタイ 25:41）
- ・「竜とその使いたち」（黙示 12:7）

などと呼ばれています。

II. 悪霊の存在について

1. 旧約聖書からの証言

- ・「ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た」（ヨブ 1:6）
- ・「神からの悪霊が激しくサウルに降り」（サムエル上 18:10）
- ・「サタンがイスラエルに対して立ち、イスラエルの人口を数えるようにダビデを誘った」（歴代誌上 21:1）
- ・「主の御使いの前に立つ大祭司ヨシュアと、その右に立って彼を訴えようとしているサタン」（ゼガリヤ 3:1）
- ・「悪魔のねたみによって死がこの世に入り、悪魔の仲間に属する者が死を味わうのである」（知恵の書 2:24）

2. 新約聖書からの証言

- ・「サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ」(マタイ 12:26)
- ・「呪われた者ども、私から離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ」(マタイ 25:41)。…悪人と悪魔とその手下は区別されています。
- ・「あなたは神は唯一だと信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています」(ヤコブ 2:19)…悪霊は知識を備え、思考力を持っている者であることを明らかにしています。
- ・「サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです」(2 コリント 2:11)…悪霊は思考力を持っていること。
- ・「彼らは、悪魔に生け捕りにされてその意のままになっていても、いつか目覚めてその罠から逃れるようになるでしょう」(2 テモテ 2:26)…悪魔は自分の意思を持っていること。

Ⅲ. 悪霊は初め、善なる霊に造られたけれども自ら悪霊となったこと

- ・「神は、罪を犯した天使たちを容赦せず、暗闇という縄で縛って地獄に引き渡し、裁きのために閉じ込められました」(2 ペトロ 2:4)
- ・「自分の領分を守らないで、その住まいを見捨ててしまった天使たちを大いなる日の裁きのために、永遠の鎖で縛り、暗闇の中に閉じ込められました」(ユダ 6)
- ・「ああ、お前は天から落ちた。明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた。…かつてお前は心に思った。「私は天に上り、王座を神の星よりも高く据え、神々の集う北の果ての山に座し、雲の頂きに登って、いと高き者のようになろう」と。しかし、お前は陰府に落とされた、墓穴の底に」。(イザヤ 14:12-15)

(1). 【天使が自由意志をもって悪魔となったこと】

悪魔は、他の諸霊を率いて傲慢によって罪に陥ったという説は、古代からキリスト教会にありました。

悪魔は、もともとは神によって創造された善なる霊的な存在者である、知恵と自由意志を持った天使でした。この天使は人間が創造される前に、創造されました。神が、悪を創造することはありえません。また、善なる者をさらに善なる者に変えることはあっても、まったく逆の悪なる者に造り変えることもありません。また、神によって善として造られた者が、自然に悪に変わってしまうことも、考えられません。もし、そうなら神の創造は失敗であり、不完全であるということになってしまいます。

善なる者が悪なる者になるためには、何らかの《意志の働き》が必要です。意志のある者のみが《善なる状態・状況》を《悪なる状態・状況》に置くことができます。神が善なる者として造られた知恵と自由意志のある《天使》が傲慢になり、自分の意思で自ら神のようになろうとして、神から離れ、自分を悪なる状態に置いたので《悪魔》

となってしまったと教会は教えています。

(2). 【悪とは存在ではなく、状態であること】

「彼らに当然属すべき善が欠如し、消失しているために、彼らは悪いといわれるのである。…悪とは不完全な善である。」

「本性の秩序が乱れることによって、調和と均衡の構造が弱まり、同じ状態に留まることが出来なくなったのである。」

「悪魔が悪いのはただ天使にふさわしい善をもたないからだということになる。…悪魔が悪いといわれるのは、その本性的活動が衰弱していることによる。…本来彼らに属するものから逸脱し離れ去ること、それらを獲得できず完成もできないという無力さのためである。」

「彼らに与えられた善のすべてが変化したわけではない。…彼らに与えられた天使的賜物に変化したとは、我々は決していうつもりはない。その賜物は完璧で、隅々まで輝いている。しかし、悪魔たちは、彼らの善を見る能力を閉じて見ようとしないのである。彼らが存在する限り善から生じた善いものなのであり、存在者として在ること、生きること、知ることを望むことによって美と善を望んでいるのである。」

「悪というものは、悪魔においても我々の魂においても、悪として存在するのではなく、それぞれに固有の善のあるべき完全な状態が欠如、不在であることによるのである。」

聖ディオニシオス・アレオパギテース『神名論』(485～531)より

悪魔は本性から悪ではありません。神から、存在、知恵、意志、能力、思考を既に与えられているからです。すべての存在物は、善なる神から出、その善である存在自体をいただいているからです。善からは善しか出ません。もし、悪魔が本質から悪なら、自分の存在も否定しなければならぬでしょう。世の存在者で、善に全く与らないような者は存在しません。彼は《善》という状態に留まることが出来なくなった者であり、神からせつかくいただいた《善》なる多くの賜物を感謝できなかつた者なのです。悪魔は、自分の《善なる性暫》を《否定》し、悪になりえない善なる性質を《悪》にしつづけるという《強情者》《変わり者》なのです。何が不満だったのでしょうか?自分を生んでくれた者に敵対するとは、何と悪魔とは人間に似ているのでしょうか。実は逆で、神から離れた人間が悪魔に似てゆくのです。

(3). 【悪魔はどこまで墮落したのか】

神は天と地しか造っていないから、天(=神)から離れた悪魔は、地に行くしかありません。悪魔となった天使は、落ちる道連れに神から地を任された人間に迫りました。悪魔は霊ですから、人間の霊に働きかけて墮落させました。ところが入闇は霊と肉からできた合成物なので、霊と共に肉も墮落することになります。肉は死によって土に分解して、

落ちることは止まります。死によって人間の墮落に一応、終止符が打たれることとなります。肉体が無いので、罪は自分が働ける場所が無くなるからです。人間は、肉体が与えられていることにより、靈的存在者（天使）よりも優れたものです。肉体の弱さにより、人間は罪を知り、謙虚になることができます。靈の病は、悪い癖や悪い生活習慣という肉体の症状として現れてきます。靈と肉体が一体だからです。こうして身についた悪い癖や悪い生活習慣は、もともと靈の癖や習慣といえます。故に、肉体に悪い症状が現れたら、靈が病んでいることを知って、治療し癒すことができるのです。ところが、天使には肉体が無いので、落ちるとなるとどこまでも落ちてしまい、自分の靈的病を知る場がありません。靈である悪魔は、地より落ちて、地の底＝地獄（靈的に最も低い所）にまで落ちてしまいました。悪魔がいる所を靈的に地獄と呼びます。故に、悪魔が人間に近づいたのであればこの世が、地獄ということになります。彼は神のいない世界を造ろうとしているのです。地獄は既にこの世で始まり、来世で行き着きます。悪魔は、来世の永遠の滅び＝地獄に行く、同じ道連れをこの世で造ろうとし、引き込もうとしているのです。悪魔は、神でも無いもの＝命や喜びや平安を与えることのできないもの＝虚像を餌として、人間を釣ります。決して満足しない、餌を与え続けて、人間を奈落の底に引きずり込もうとするのです。餌を与え続けるのです。

IV. 悪霊の性質について

悪霊は罪に陥らない前は、天使であったので、悪霊となってからも天使としての性質は持ったままです。その性質は、

(1). 【**悪魔の力には限界があること**】

- ・「汚れた靈に対する権能をお授けになった」（マタイ 10:1）
- ・「わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」（ルカ 11:20）

(2). 【**知性と自由意志を持っていること**】

- ・「サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです」（2 コリント 2:11）

(3). 【**悪霊は靈であること**】

- ・「このマリアは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である」（マルコ 16:9）
- ・「たくさん悪霊がこの男に入っていたからである」（ルカ 8:30）

(4). 【**彼らも創造されたものであること**】

悪魔がいくら神に対抗して自分の立場を変えても、一方は造られた者で他方は造った者という立場は変わらず、決して神と対等になれません。神と悪魔の対立という二元論は存在しないのです。悪魔は神の許可が無ければ、人を誘惑することもできません。

- ・「主はサタンに言われた。それでは彼をお前のいいようにするがよい。ただし、命だけは奪うな」(ヨブ 2:6)

(5). 【悪魔は神と人間の敵であること】

- ・「私たちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪霊の諸霊を相手にするものなのです」(エフェソ 6:12)
- ・「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、誰かを食いつくそうと探し回っています。」(1ペトロ 5:8)
- ・「悪魔は最初から入殺しであって、真理をよりどころとしていない」(ヨハネ 8:44)
- ・「この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。」(Iコリント 4:4)
- ・「御言葉を聞くが、信じて救われることのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る」(ルカ 8:12)
- ・「毒麦を蒔いた敵は悪魔」(マタイ 13:39)

V. 神が悪霊の働きを許す理由について

そもそも人間が、いつも自分の意思で善に向かっていけば悪魔の働きも無力なものとなり、神はすぐにでも悪魔を滅ぼすことができたでしょう。しかし、人間が自分の意思で悪を自分の中に受け入れ、悪魔の似姿となってしまったので、悪を滅ぼせば、人間をも共に滅ぼさなければならなくなってしまいます。そこで神は、悪をすぐに滅ぼすことをせず、悪を用いて善を生み出すことを計画されたのです。聖マクシモス(580-662)は、神が悪魔の働きを許可する理由を五つ上げています。

- (1) 攻撃と反撃によって、われらが徳と悪徳とを判断することを学ぶため。…一度、病気になるれば、同じ病気を症状によって見分けることができ、病気の人に助言することができます。
- (2) 葛藤と労苦により得た徳を安全かつ不変に保つため。…病気が治ってから健康管理をするようになり、節制をするようになります。
- (3) 徳を高める時に、われらが謙虚を学び、高慢にならないため。…病気になって健康のありがたみが初めて分かり、謙虚になって健康を感謝するようになります。
- (4) 悪を体験してわれらが悪を完璧な憎悪によって憎むためです。…悪に飽きるようにさせるためです。
- (5) 最も重要なのは、冷静さを取り戻した後に、自分の弱さと我らを助けられる神の力を忘れないためです。…自分の弱さを知って、益々神を必要となるためであり、自分を救って下さった神の憐れみ深さを知って、神を愛するようになるためです。